

「ゆきなりとさねかた」 かながきげんだいごやく

仮名書き現代語訳を参考に、ノートに書写した本文に傍線注釈をしなさい。(仮名書きを常用漢字に直すこと。《 》内は自分で現代語訳したり入るものを考えること。)

担当に当たった人は、**授業開始前に黒板に傍線注釈を書き、下段にある問に答えられるよう**に準備しておくこと。

助動詞は○で囲み、格助詞は〳〵をひき、それぞれ文法的意味を記すこと。

- ① だいなごんゆきなりきようが、(わかいとき) まだ《 》、
- ② さねかたのちゅうじようが、《 》、
- ③ てんじようのまにさんじようして (ゆきなりと) でくわして、こ
とばをはつすることもなく、
- ④ ゆきなりのかんむりを《 》。
- ⑤ 《 》、《 》、「かんむりをとつて《 》。」と《 》て、
- ⑥ (とりにかせてもとのように) かんむりをかぶつて、まもりが
たなからこうがいぬきだして、(みだれた) びんのけを《 》、い
ずまいを正して
- ⑦ 《 》にむかい、《 》。
- ⑧ 《 》らんぼうなしうちをうけなければならないわけは、おもい
あたりません。
- ⑨ (まずわたしがばつをうける) そのわけを《 》、(ばつをうける
のは、その) あと《 》。」と、
- ⑩ 《 》。
- ⑪ 《 》。
- ⑫ 《 》、こじとみから (いちじよう) てんのうが《 》、
- ⑬ 「《 》。
- ⑭ 《 》。」と《 》て、
- ⑮ そのときくろうどのとう (のやくしよく) があいていたので、
《 》、(ゆきなりを) 《 》。
- ⑯ さねかたは、ちゅうじようのかんしよくをおとりあげなさつて、
「《 》。」と《 》て、
- ⑰ みちのくのかみに《 》(おうしゅうへ) はけんなさつた。
- ⑱ 《 》は《 》そのちでなくなつてしまった。
- ⑲ さねかたは、くろうどのとうに《 》、(このよに) しゅうちやく
がのこつて、
- ⑳ すずめとなつて、てんじようのまのこだいばんに《 》、だいは
んをつついていたということを、ひとがいつていた。
・ひとり忍耐《 》ために《 》、
・ひとりは《 》。

- ① 「卿」とは何か？
- ① 「大納言」と「殿上人」の違いをふまえる。
- ② 「かーけん、」を文法用語でなんというか？

⑧ 「こそ」の結びを説明しなさい。

⑭ 「と」と「て」の間に適切な敬語を入れて訳しなさい。

⑱の主語は誰か。

⑳ 「あ」を品詞分解し、適切に訳しなさい。

問一、敬語を指摘し、基本形、敬語の種類、品詞、現代語訳、誰から誰への敬意かをまとめなさい。

No.	敬語（基本形）	種類・品詞	現代語訳	敬意の方向
①	おはし（おはす）	「あり」の尊敬・動詞	いらつしやる	著者から行成
				から
				から
				から
				から
				から
				から
				から
				から
				から
				から
				から
				から
				から

問二、「十訓抄」は、十ヶ条の教誡を掲げ、古今和漢の教訓的な話を通俗に説いたものである。「十訓」とは次の

- 第一、人に恵みを施すべき事（人に恵みをあたえなさい）
- 第二、驕慢を離るべき事（おごりたかぶるのをやめなさい）
- 第三、人倫を侮るべからざる事（人を馬鹿にするのをやめなさい）
- 第四、人上を誡むべき事（人をあげつらうのはやめなさい）
- 第五、朋友を撰ぶべき事（友達は選びなさい）
- 第六、忠直を存すべき事（忠義は正しく行いなさい）
- 第七、思慮を専らにすべき事（思慮深くありなさい）
- 第八、忍す諸事を堪ふべき事（我慢することを学びなさい）
- 第九、懇望を停むべき事（何でも欲しがることをやめなさい）
- 第十、才能を庶幾すべき事（自分の才能をみがきなさい）

であるが、この話ほどの教誡を説いた話だろうか。